


 学生のページ

第57回総会学術大会に参加して - 大会テーマ「心の技術の創造」に関して思うこと -



金沢大学大学院医学系研究科
萬代 奈都子

「やっと、着いた...！」

神戸へ発つ日の早朝。バスのなかから見た兼六園の桜は、「もう少しだけど、まだ咲かないよ」と言っているかのように、小さな紅色の蕾が静かに時を待ち続けていました。しかし、JRに乗って窓の外を眺めていると、陽気な日差しの中、あちこちで桜が開花し、レジャーシートを敷いて花見を楽しむ人々の姿が多く見受けられました。そして、三宮からポートライナーで移動し、市民病院前駅に降り立ってみると、そこには、薄いピンク色をした、満開の桜の並木道が「ようこそ！」と私たちを出迎えてくれました。空も快晴！海風も心地よく、まさに最高のシーズンに第57回総会学術大会は開催されたように思います。

地方部会や研究会しか参加したことのなかった私にとって、昨年度、初めて参加した春の総会は、非常に衝撃的で刺激的な場所でした。熱い議論が飛び交う研究発表、最新の医療機器の展示、そして自分の仕事に対して誇りを持ち、情熱を傾けている人たちとの、地理、立場、世代を超えた出会い.....。まだまだ自分には実力が伴わないけれど、「いつかはああいうふうにな

りたい」という、大きな目標を持つことができました。

そして、1年後に迎えた今大会。3日目にあった自分の研究発表では、厳しい質問状況を想定しての練習と対策が功を奏してか、思っていたよりも落ち着いて話すことができました。発表後、座長の中前先生や質問者の先生から、ROC解析結果の観察者によるばらつきについてご指摘を受け、観察者の訓練など、実験者の注意点について貴重なアドバイスをいただきました。今後、同様の実験をする際には、それらの点を十分考慮したうえで、適切な視覚評価を行いたいと思います。

また、2001国際医用画像総展(ITEM2001)では、私たちの研究室が注目しているフラットパネルディテクタを始めとする半導体検出器や胸部診断支援システム、高精細液晶ディスプレイや病院内におけるネットワークシステムを中心に拝見させていただきました。今までパンフレットなどでしか見たことのなかった製品に対して直に触れ、メーカーの方の丁寧な説明を聞いているうちに、「ここまで技術は進歩してきているの



Photo. 1 金沢から神戸に向けて、いざ出陣！



Photo. 2 美しい桜並木。



Photo. 3 発表時の様子。



Photo. 4 思い出の景観。



Photo. 5 研究室のメンバーと一緒に。

か……。すごい！！」と実感することができましたし、「患者さんやユーザにとってより良いものであるために」というメーカー側の必死の努力が伺えました。来年は一体どのような展示になるのか、今からとても楽しみです。

さて、今大会で最も驚いた出来事は、小寺吉衛大会長が大会長講演の最後のスライドで、2年前に私が大会長に申し上げた内容を取り上げて下さったということです。いきなり自分の名前を挙げられたときはとまどいを隠せませんでした。小寺大会長があのかのときの発言を真摯に受け止めて下さったということに対して、非常に嬉しく思いました。

2年前、私は大会長にこのような意見を述べました。「先生、日本における医療職の倫理として、看護婦さんにはナイチンゲール憲章が、医者にはヒポクラテスの誓いがありますよね。では、診療放射線技師には一体何があるのでしょうか？」

当時私は、「診療放射線技師とは一体何なのだろ

う?」、「診療放射線技師の使命とは何なのだろう?」という疑問を抱いていました。しかし、一見単純そうな疑問ながらも、どこにもその答えは見つかりませんでした。

その後、小寺大会長とメールで意見交換し合った結果、「日本の診療放射線技師も、そうした理念や概念、倫理観を、これからみんなで作っていけるように努力しなければならない」という結論に至りました。

今年の大会テーマは【放射線科学の新しい波 - 心の技術の創造】です。サービス業ともいえる現代の医療において、この「心の技術」なくして、人と良好なコミュニケーションや人間関係を築き上げることは難しいといえると思います。

例えば、私は大学院で看護の授業を選択していますが、そこで出会った先生や学生、学生でありながら現場の第一線で働かれている看護婦さんたちは、この心の技術に非常に長けていて、自分の意見や考えを自分の言葉で表現したり、相手を思いやる気持ちを持って語りかけたりすることをとても上手に行っています。

もちろん、放射線技術科学専攻の学生が皆、自己表現が下手で冷たい人なのかということ、決してそうではありません。ただ、私が少なからず看護の授業を受けて感じたのは、初等教育の時点から自分で調べて考察するという訓練と、そこから導き出された自分の考えを先生や同級生とのディスカッションを通じてより深め合っていく過程が非常に重要なのではないかと、また、従来からの学問と並行して、人間についてもう少し深く勉強する必要があるのではないかとということです。

放射線技術科学という分野は、現在まで、医学、工学、薬学、物理学、化学、生物学、写真学など、さまざまな分野から知識や技術を取り入れる形で発展してきました。前述しました機器展示に象徴されますように、それらは今後、ますます進歩していくと思います。

しかし、これからの時代は、さらに他の分野との skill mix - すなわち、人と接し、人を理解するという観点から、看護学、理学療法学、作業療法学など、同じ保健医療の分野や、人間の内面に光をあてた、心理

学，哲学のような分野とのskill mixが必要不可欠の時代になると私は考えています．例えば，それは，患者さんに対するきめ細やかな接し方や他の職種との関係のとれたチーム医療，人間の思考や実用性に合わせたシステム作りに生かされてくると思います．

終わりにになりましたが，今回このような機会を与えてくださった小寺吉衛大会長をはじめ，関係者の皆様方，本当にありがとうございました．

私が在籍している研究室では，動画対応フラットパ

ネルディテクタを用いた新しい撮影法やCAD(computer aided diagnosis)などについて研究を行っています．HPも開設しておりますので，是非そちらのほうもご覧ください．

新HP : <http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Library/7737/index.html>

旧HP : <http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/4058/index.html>

参考資料

- ・松本満臣：診療放射線技師教育の流れ：第3報 大綱化カリキュラムの要点と考え方．日放技学誌，57(3)，258-263，(2001)．